

皆さん、おはようございます。新入職員になってまだ間もない、1カ月もたっていないので、まだまだ右も左もわからないという状況が続いているかと思います。今日の話は、職員の心得や、どのように職場に慣れるかというたぐいの話ではなくて、私自身が、このような道を歩んで、町をこのようにしていくつもりなのだというようなことを話してみたいと思います。富士見町役場に去年入って、このような講義を聞いた方を集めて、何を言ったか覚えているか。「殆ど覚えていません」という人が大半でした。1年経って忘れる。恐らく潜在的には入っているかもしれませんが、少しは、来年になっても、富士見の小林という者がこのような話をしたと言えるぐらいの話ができればなということで、あまり仕事でこのような規律を守りなさいというようなことはやりません。私が歩んできた道、それから、このようにしてほしいということを少しお話ししたいと思います。

私は、富士見町に生まれて、東京に出て、会社に入って、会社で社長になりたかったのですが、ついになり損なって、「じゃ、町長になろうか」という大胆な発想で町長にチャレンジして、それが何とか通って町長をやっているという変わり種です。中学生のころから、自分の人生のゴールは何だということは余り考えてなかったのですが、自分の人生の目標は、いい大学に必ず入る。それだけが目標だったのです。つまり、小学校、中学校、高校、大学、これは皆の人生の中でもルールが引かれているのです。余り余計なことを考えなくて、自分の道は何にしようかということ余り迷わずに、義務教育をやっ、高校を出て、このような大学に入ってというところまでは、必ずはっきりしていると思うのです。そこまではルールがあったのです。私も、そのルールに乗って、そこそこ走っていった。目標は何であったか。それなりのいい大学に入ること、それだけが目標だったのです。将来の自分の夢や、人生はこのように過ごすのだというような高尚なことは一切考えなかった。

私が大学に入って突然、気がついたことは、自分の目標は達成した。でも、次の目標が見つからない。どのようにこれから自分の人生を組み立てていくか。全く混沌とした迷いの中で、4年間を浪費した。私の人生の中で、大学の4年間はほとんど時間を無駄に費やしたというのが自分の状況です。何とか、優を皆さんは取って卒業してきたかもしれませんが、私は良可集というものがあるのです。良と可しかない。可と不可、可不可全書という哲学書があるのですが、可と不可だけだと卒業できませんので、良と可だけしかないということで、かなりビリの方で、何とか卒業した。

卒業はできたとしても、日々を浪費していた。雀荘で徹夜で、勉強もしなくて過ごしてきた。どこの会社に入ろうかなと思って、入れてくれるような会社を探していたところ、私はたまたまNECに応募しました。NECがどのような会社かを知らなかったのです。自分の周りにはたくさん優秀な学生たちがいたので、その人たちは皆、NTTや東芝、日立、あるいはパナソニックと、非常に有名な会社に入っていた。彼らのあの優秀な頭にはかなわないから、知らない会社に入ろうと思ってNECに入ったのですが、NECも結構有名だったということが後でわかって、とんでもない会社に入ったなと思いました。そこで、私は自分の人生をNECにかけて、これからはチャレンジして、必ず目標を持って、

その目標に向かって、それを実現するというを幾つものし遂げようと決心したわけ  
です。

この目標が、割と高い目標を設定しましたので、それに到達するためには、ありとあらゆる努力をして、それなりに実現もしたのですが、大失敗もたくさんしました。挫折感もたくさん味わったのです。それでも、その過程で私が得た教訓は、まず、目標をそれなりに高く持って、それに向かって全力を投入しても、必ず、挫折、失敗を繰り返します。しかし、絶対に諦めてはならない。諦めずに粘り強く、粘りに粘って、何とかこの目標に到達するというを常に心がけることが非常に大事だということが一つ。

それからもう一つは、余り深刻に人生を考えてはいけない。楽観的になれということ  
です。つまり、いつも明るく楽観的に、大きな失敗をくよくよしない。何か悲しい出来事  
があって、長い間、悲しみに沈んでいると何も前進できないのです。従って、できるだけ  
よくよしないで前進するというに早く切りかえて、未来に向かう。また、今の世の中、  
自分の未来をどのように考えるか。いろいろな社会問題もあります。政治問題もあります。  
そのような未来に対していたずらに不安感を抱くということもあるのです。決して、未来  
に対して不安感などを抱かない。自分の目標を常に持って、そこに突き進んでいくとい  
うことを楽観的に考えて進んでください。私は、ずっとそのように心がけてきた。それで、  
進んでいきますと、必ず大きな壁があらわれるのです。この壁はとても乗り越えられそ  
うもないというような壁があらわれますけれども、その壁にひるんでいてはだめなのです。  
私は、そのようなことが起こったときに「新しい困難な壁を発見した。これを幸せに思  
う」と。なかなか思えないのですが、幸せに思う。この壁を何とか乗り越えれば、また1歩前  
進ができるということをしっかり期待して、それを夢にして、この壁を乗り越えようとい  
ろいろ工夫して乗り越えるというようなことで、粘りに粘って、楽観的に、それにチャレ  
ンジしていくことを心掛けてきました。そのようなことで、皆さんにも参考にしてもら  
いこれからの人生を送っていただきたいと思えます。

そして、NECを退社して富士見町の町長になりました。私はNECで、結構高額の給  
料をもらって、本社に在籍していました。目標としていた社長になれないということがわ  
かりまして、どうせ関係の会社に行くのかなと思っていたのです。その時、私のふるさと  
富士見町で町長選が行われることがわかりました。町長にチャレンジできないかと富士見  
町をネットでよく勉強したら、借金が50億を超えて、年間で銀行に返済する金額は3億  
にのぼっていることがわかりました。富士見町は第2の夕張になるのではないかという話  
もありました。私は富士見町で生まれて、高校までは富士見町で過ごしました。農家  
でしたから、学校へ行きながら、農業で田植えもやったし、野菜作りも手伝ったり、また、山  
へ行って炭焼きもやったというような生活をしてきましたが、高校を卒業して、東京へ出  
て45年間富士見町を留守にしました。富士見町も、観光が発展して、パノラマスキー場  
ができていました。パノラマスキー場があるために、父が住む神戸の実家に泊まり、スキ  
ーを楽しんでいました。そのパノラマが、35億という驚異的な借金を抱えてしまいました。

また、住宅団地を作る土地を、八ヶ岳の山の麓に作ろうと、不便なところを買ってしまいましたが、15億の借金の不良土地になってしまいました。従って、土地開発公社とパノラマの開発公社、50億を超える借金を抱えているということがわかったのです。このままいくと、パノラマを閉鎖せざるを得ず、債権放棄を銀行に迫って潰してしまおうという話が真面目に議論されていました。私は自分のふるさとのパノラマがなくなることに對して非常に抵抗感がありました。これを何とかしなければと、この思いが募り、無謀と言われましたが町長になって、自分が何とかしようという決心をしたのです。

東京で過ごした45年のブランクは大きなハンディキャップで、私は全く無名の候補、知名度ゼロの町長候補で、相手は現職の3期目を目指すバリバリの絶対大丈夫だという方が立っていたのです。選挙の日は8月9日。私がチャレンジすることを決意して表明したのが6月20日ぐらいです。1カ月半ぐらいしか、選挙の投票日までなかったのです。そのような状態で私は立候補したので、町民の誰もが、私が当選するとは思っていませんでした。それでも、私はいろいろ知恵を使い、やれることはすべてやろうと考え、富士見町の全部で4,500戸ぐらいを足で回って、家にいる人、畑で働いている人すべてと握手をし続けました。また、自分だったら富士見の問題はこのように解決するという『やまびこ通信』というビラを全戸に配布しました。それから、車座集会を開いて、皆さんに毎週私の訴えを理解していただきました。この三つを死力を尽くし、何とかなると信じ頑張りました。

ちょうど運がよかったことは、オバマ旋風で、民主党が政権を取ったときです。自民党ではもう古くて、だめで、日本を変えようと。アメリカも、オバマさんが黒人の大統領ということで非常にオバマ旋風が吹いていて、オバマさんの民主党と日本も鳩山さんや菅さんなど、民主党が非常に風に乗って勢いを増して、このあたりも全部、民主党一色になってしまったという時期だったのです。従って、その風が富士見にも吹いてきて、チェンジ、チェンジ。「I can change. You can change」という、オバマさんが言う言葉が流行った時代で、では、富士見も変えてみようかという雰囲気盛り上がってきました。私も一生懸命歩いて、必死になってやっているからということで同情票が入ったのかどうかわかりませんが、当選できました。

そして、まず私が取りかかったことは、50億の借金を返すことでした。町は借金を返すだけで、他市町村並みの事業はできない状態でした。公約では借金を返済し、財政再建を第一に掲げました。町長になって6年経ちましたが、50億ぐらいあったものが、今はゼロになっています。一つは、土地開発公社の15億を返済するためにメガソーラーを作り、全量税抜き40円、20年間の契約で返済の目途がつかしました。FMK（富士見メガソーラー株式会社）を設立し、NTTファシリティーズと発電所建設と20年間の保守契約を行いました。発電所建設には8億の投資が必要でしたが、町は2億の投資が限度で、6億は3銀行に無担保、無保証で融資を引き受けていただきました。現在運転を開始し2年半経ちますが、計画通り借金返済が行われています。

パノラマの 35 億の借金は、私自身実質の経営のトップとして経営改善を行い、平成 27 年度に完済しました。毎年 3 億の不良借金返済がなくなり、現在、財政は大きく改善しました。最大の公約であった財政健全化が成し遂げられたと考えています。

いよいよ今年度から新しい町づくり、地域創生戦略の実行です。最も重要戦略は人口減対策です。ここ 5 年間で毎年 100 人の減少が起り、500 人減りましたが、その大部分は若者の東京を中心とした町外移住によるものです。27 年度に作成した第 5 次 5 ヶ年計画では、毎年 100 人減少している町の総人口を今後、減少させない施策を基本としました。

その為に都会から若者をテレワークタウン構想で、I ターンや U ターンさせる事や、子どもの数を増やすために子育て支援策に力を入れる事としました。28 年度は地方創生スタートダッシュという事で、併せて 1 億円以上の事業費を増加させました。

日本の人口は今、首都圏に一極集中しています。しかし東京では女性が一生のうちに育てる子どもの数は 1.1 で、今後何十年か先には 1200 万人が 400 万人に減るとの推計も出ています。

ただ現在は、東京には仕事も人もお金も集中し、豊かな暮らしができるとして、まだ地方から東京に出て行く若者が後を断ちません。しかし、いずれは地方に若者がいなくなり、東京も人口が急減し、地方から日本が崩れていく危機が想定されています。

諏訪 6 市町村とも若者の人口減少は深刻でかつ高齢化が進み、1 年で 1% ずつ高齢化率が增大しています。富士見町では今後 5 年間、500 人の人口減少をゼロに抑え、高齢化率を 3% 以上上げる事を戦略に掲げました。具体的には、新しい戦略テレワークタウン富士見で +150 人、新規就農で +150 人、子ども増加策等で +100 人、一般移住促進で +100 総計で 500 人を挽回する目標を作りました。

本日は新しい働き方で移住を増やすテレワークタウン富士見について少し詳しくお話します。現在、東京でオフィスワークをしている人々は数百万人います。中でも PC やタブレットと高速ネットワークがあれば、どこでも仕事ができる人々が半分以上占めています。現在の日本の IT 技術、ネットワーク技術は世界トップレベルにあり、既に日本全国津々浦々に張り巡らされたネットワーク網を使えば、いつでもどこでも同じ仕事が継続できる環境が整いつつあります。

富士見町では昨年 12 月に集合テレワークオフィス「富士見森のオフィス」をオープンし、すぐに 8 企業で満杯になりました。富士見森のオフィスには、さらに個人でテレワークの仕事を行っている人々に高速ネットワークを使えるコワーキングスペースを 20 席設け、50 人以上のフリーランスメンバーが代わる代わるやってきて仕事をしています。



森のオフィスのオープンは H27 年 12 月 12 日でした。定員の 8 企業の社長、社員、地元関係者、国、県の地方創生担当者等 130 人が出席し、盛大にオープニングセレモニーが行われました。NHK、ABN、SBC のテレビ局を始め、多くのメディアが注目し、報道されました。

さて、富士見町の山野草を観光に大きく活用しようと、町とテレワーク 2 社との観光 IT プロジェクトがアプリの開発を進めています。富士見町の花々の写真です。



花の百名山と言われる入笠山には 1000 種類の高山の花が咲き乱れます。美しい花をスマホで写真に撮ると、直ちに花認識し、名前・由来・撮った場所を表示し保存します。さらに花に感動した文章も付け加え、カレンダーとして保存します。後に PC やサーバのアプリにも保存できます。このアプリが完成すれば、富士見は花の名所として観光客が増え、テレワーク企業は本アプリを他の地域にも展開し、収入増が見込めます。

富士見町としてもテレワーク企業の誘致と、より多くの人材に定住していただくために、テレワーク企業に富士見町の産業を IT で強化していただく戦略を実行しています。現在は「花の日記」の観光 IT プロジェクト以外に農業 IT、福祉 IT プロジェクトを計画しています。いずれもテレワーク企業にとって売上、利益が増え、富士見の産業にとっても大きなメリットが生ずることに加え、若者の移住・定住につながると考えています。

農業では、地元の農家の農業離れが進んでいますが、一方で都会の生活から離れ、農業を中心に田舎暮らしをしたいという若者も増えています。



富士見町では、農業を教える親方・住居・農産物の畑・機械・生活費補助 150 万円／年を 1 パッケージとして提供し、宣伝しています。都会の農業者誘致イベントに参加して、農業希望者でかつ有力な若者を 4 年間で 40 人、家族で 52 人を誘致しました。現在皆さん脱落せず収入をどんどん増やしています。

そんな富士見町の農業に対する施策を観察していた農業法人が 9 社も参入してきました。雇用トータルで 200 人は見込めます。



新規就農者の一人の写真です。彼は 4 年ほど前にパッケージに魅力を感じ、菊の栽培に注力しています。今では実力も上がり、JA フラワー品評大会で JA フラワー賞を受賞しました。彼は婚活に 3 回チャレンジし、見事結婚にこぎつけ、お子さんも生まれるとのことです。

農業も今後 IT を活用し、より強い産業にするためにテレワーク、企業、JA、生産者とプロジェクトを組む計画が協議されています。既に具体的に参加者内容も固まりつつあります。これが農業 IT プロジェクトと称しています。

また、健康増進を促進するために、センサ付きウォッチと健康増進のための運動量などをセンサでチェックし、サーバに送り分析し、運動を促すなどのメッセージを送る、福祉 IT プロジェクトも計画中です。

最後に、再建されたパノラマスキー場を滑っている私の動画から撮った写真をご覧ください、皆様のご来場をお待ちして私の話を終わりにします。

